

# 出資法人等経営状況報告書

## 1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和5年8月24日	担当部署	産業部 産業政策課
-------	-----------	------	-----------

※以下は令和5年3月31日現在の内容です。

## 2 法人等の概要

法人名	有限会社 やまざくら		
代表者	代表取締役 飯田 多津子		
	<input type="checkbox"/> 常勤	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤	<input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他
所在地	新潟県上越市大島区大平 3874 番地 1		
設立年月日	平成9年7月14日		
資本金	11,600 千円	市出資割合	98.3%
設立目的	上越市の食料品等販売施設「大島やまざくら」の管理運営を通じ、若者を中心とする人口流出による過疎化が進む大島区において、生鮮食料品の販売を中心とした営業を展開し、住民生活の利便の向上を図る。		
主な事業	(1) 大島やまざくらの管理 (2) 大島やまざくらの運営穀類、農産物、山菜、花卉、食料品、清涼飲料水、日用品雑貨、酒類及びたばこの販売 (3) 移動販売車による食料品等の販売		

## 3 役員数

(単位：人)

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
取締役	0	2	2	2	0	0
監査役	0	1	1	1	0	0
計	0	3	3	3	0	0

## 4 職員数

(単位：人)

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	2	2	0
その他	3	3	0
計	5	5	0

## 5 事業実績（概要）

### 【第 26 期の経営状況】

- ・ 第 26 期（令和 4 年度）の売上高は、前期と比較して 908 千円減（1.6%の減）の 57,408 千円となりました。店舗では、周辺人口の減少による利用者数の減少に伴い売上高が 1,041 千円減少した一方、移動販売では、客単価の上昇により売上高が 99 千円増加しました。
- ・ 売上原価は、前期と比較して 342 千円減の 40,971 千円となりましたが、指定管理料を除く売上高に占める売上原価は、前期と比較して 0.7%増の 77.1%でした。
- ・ 販売費及び一般管理費は、49 千円減の 17,013 千円となりました。
- ・ この結果、営業利益は△577 千円、経常利益は△200 千円と赤字となりましたが、エネルギー価格等の高騰に対する市の各種補助金など特別利益が 479 千円あったことから、当期純利益は 25 千円を計上し、9 期連続の単年度黒字となりました。また、第 26 期末の純資産は 14,952 千円となりました。

### 【第 26 期の主な取組】

- ・ 前期に引き続き、生鮮食品等の廃棄ロスの削減等に取り組みました。
- ・ 移動販売では、利用者の需要に応じた仕入れに取り組み、客単価の向上を図りました。

### 【売上高の実績】（税抜）

（単位：千円）

部門	第 24 期	第 25 期	第 26 期	
	実績	実績	目標	実績
店舗	46,705	43,335	42,160	42,294
移動販売	10,679	10,736	11,130	10,835
指定管理料	3,820	4,245	4,279	4,279
合計	61,204	58,316	57,569	57,408

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

### 【利用者数の実績】

（単位：人）

部門	第 24 期	第 25 期	第 26 期	
	実績	実績	目標	実績
店舗	37,756	35,002	36,500	34,343
移動販売	5,407	5,130	5,600	4,731
合計	43,163	40,132	42,100	39,074

6 財務状況（税抜）

（単位：千円）

項 目		第 24 期	第 25 期	第 26 期
		自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日	自 令和 3 年 4 月 1 日 至 令和 4 年 3 月 31 日	自 令和 4 年 4 月 1 日 至 令和 5 年 3 月 31 日
損益計算書	売上高	61,204	58,316	57,408
	売上原価	43,044	41,313	40,971
	売上総利益	18,160	17,004	16,436
	販売費及び 一般管理費	16,014	17,062	17,013
	営業利益	2,146	△59	△577
	営業外収益	843	825	377
	営業外費用	1	2	1
	経常利益	2,988	765	△200
	特別利益	44	0	479
	特別損失	0	0	0
	税引前当期純利益	3,032	765	279
	法人税等	870	304	253
	当期純利益	2,162	461	25
項 目		令和 3 年 3 月 31 日現在	令和 4 年 3 月 31 日現在	令和 5 年 3 月 31 日現在
貸借対照表	資 産	18,170	17,842	17,689
	負 債	3,704	2,915	2,737
	純資産	14,466	14,927	14,952
	資本金	11,600	11,600	11,600
	利益剰余金	2,866	3,327	3,352
その他	0	0	0	

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

## 7 市からの財政支出等

### (1) 委託額 (税込)

(単位：千円)

内訳		令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①	大島やまざくら 指定管理料	4,202	4,670	4,707	
②	大島ゆきわり荘 施設維持管理業務委託料	462	462	0	令和3年度をもって施設廃止
計		4,664	5,132	4,707	

### (2) 財政援助額 (税込)

(単位：千円)

内訳		令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①	補助金 (助成金)	0	0	200	
	エネルギー価格高騰支援 金	0	0	200	
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他 (補填金)	0	0	278	
	エネルギー価格高騰補填 金	0	0	278	
計		0	0	478	

## 8 市以外からの補助金・助成金等

### (1) 受給額 (税込)

(単位：千円)

内訳		令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①					
②					
③					
④					
⑤					
計		0	0	0	

## 9 今後の経営計画等

### (1) 次期事業計画

第 27 期は、売上高 57,919 千円、営業利益 3 千円、当期純利益 40 千円の計上による 10 期連続の単年度黒字を目標に次の取組を行います。

#### ① お客様のニーズを把握し魅力的な品揃えを強化

- ・来店客数及び売上げの増加を図るため、地域住民とのコミュニケーションを強化し、希望がある商品を速やかにラインナップする。
- ・今までの全日食チェーンの商品だけではなく、地元住民でもある従業員自らが欲しいと感じる、新しい商品の仕入れを行い、新規顧客の獲得や来店の動機付けに取り組む。

#### ② 接客力の強化、アピール力の強化

##### <店舗部門>

- ・介護施設への食材納入等、安定的な売上につながる顧客への販路拡大を図る。
- ・店内に手書きのPOP黒板を設置したり、次回のおすすめ商品を記載した手書きのチラシを来店者に配布したりして、魅力的な店づくりを行う。
- ・国道通行者へのアピールを強化するため、現行の電光掲示板付き看板に加え、のぼり旗の設置等を行い、視認性を高める。
- ・定期的にイベントを行い、売上アップや新規顧客獲得を目指す。

##### <移動販売部門>

- ・店舗までの移動手段のない高齢者や体の不自由な方に対するコミュニケーションの強化により、希望する商品の受注等の利便性をPRすると同時に、戸別単位での見守りを兼ねた細やかなサービス提供を行う。
- ・商工会の合併(大浦安)を一つの契機として、大島区以外の地域における買い物弱者へのサービス提供を検討する。

#### ③ 業務効率化

- ・手作業の在庫管理ではなく、POSシステムに連動した在庫管理機能を活用することで、廃棄ロスの削減に努める。
- ・経理業務の見直しによる業務効率化を図ると同時に、従業員が自ら経営改善に取り組む意識を持つことで、全体的な経費の削減を図る。

#### 【目標売上高】

(税抜：単位：千円)

期	店舗	移動販売	指定管理料	合計
第 27 期	43,035	10,605	4,279	57,919

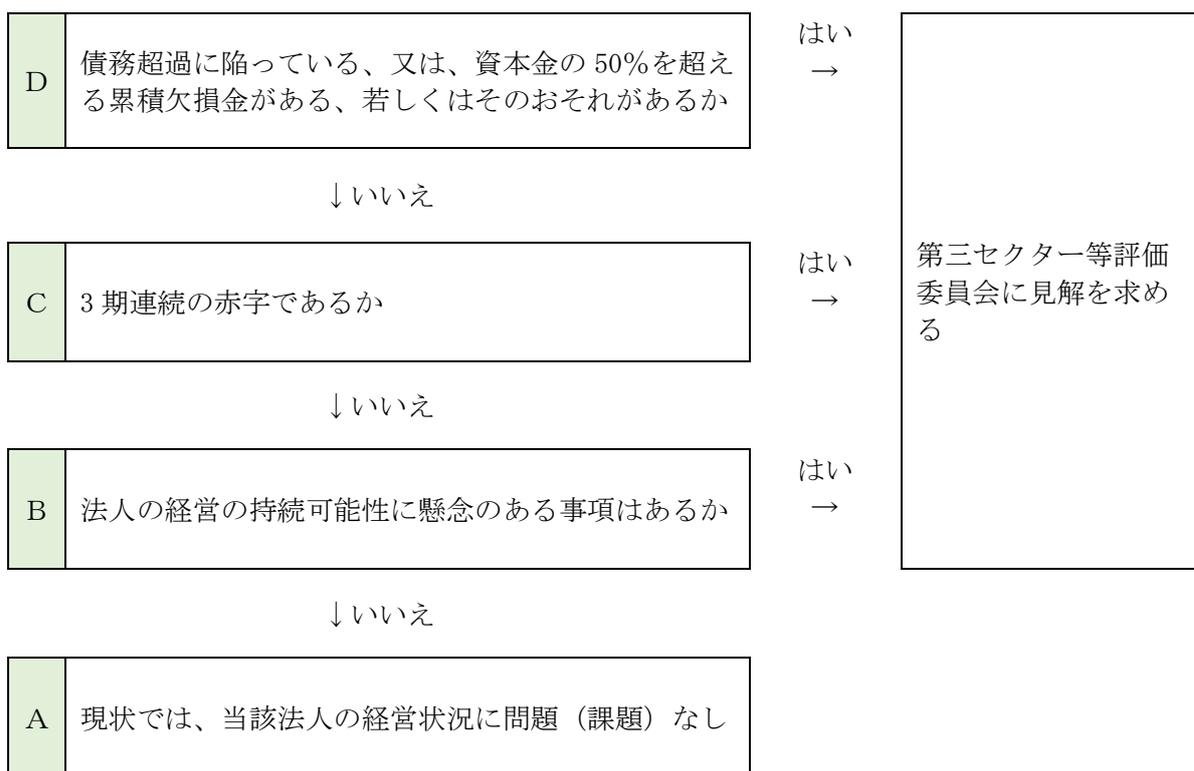
### (2) 中長期経営計画

なし

10 令和5年度 経営状況の分析・評価

(1) 第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋



フローチャートによる評価基準		備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が3期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	A	→ BからD評価の法人は(2)へ
<p>【特記事項】 特になし</p>		